設楽発掘通信

No.46
令和元年
5月号

令和元年度の発掘調査が始まります

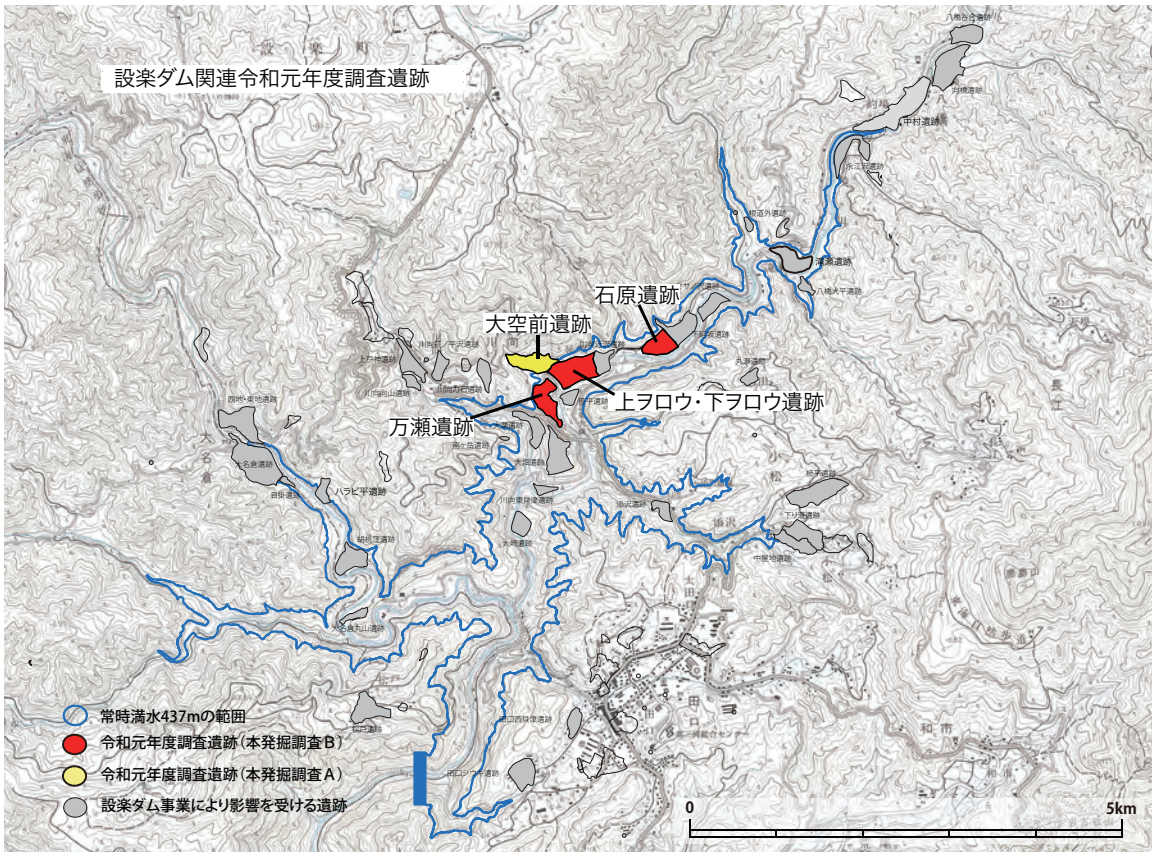
今年度も昨年度に引き続き、愛知県埋蔵文化財センターが中心となり設楽ダム関連事業に関わる遺跡の発掘調査を行います。設楽町には設楽ダム建設関連用地内およびダムによって水没する地区に多数の遺跡が存在します。工事によって失われる遺跡や水没して調査ができなくなる遺跡につきましては、遺構を記録し、遺物を取り上げるなどの調査が必要であり、実施するものです。

令和元年度に本調査（下図の本発掘調査B）を行うのは川向地区の万瀬遺跡（八千二百㎡）、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡（三千六百㎡）、石原遺跡（六千八百㎡）の三遺跡です。範囲確認調査（下図の本発掘調査A）の対象となるのは川向地区の大空前遺跡です。調査にあたりまして株式会社イビソクの支援を受け、円滑な調査を行うよう努力していきたいと思います。

またこれまで調査された遺跡の整理作業を平成二十九年度より開始しております。昨年度は西地・東地遺跡の報告書が刊行されました。今年度は川向東貝津遺跡の報告書刊行および笹平遺跡の報告書作成に向けた整理作業を行う予定です。

なお、昨年度同様に旧県保健所（設楽町田口所在）に設置しております設楽事務所を拠点として発掘調査と『設楽発掘通信』の発行、地元説明会の開催、成果報告会などの関連事業を行っていきますので、よろしくお願い申しあげます。

（愛知県埋蔵文化財センター　酒井　俊彦）



今年度発掘調査を行う遺跡をご紹介します

万瀬遺跡

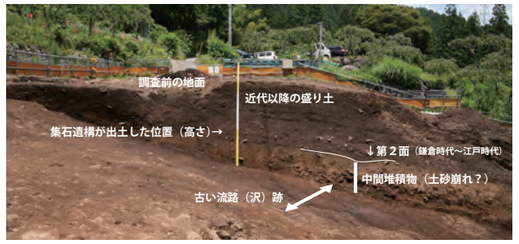
万瀬遺跡では、平成二十六年度に、愛知県埋蔵文化財センターによって、一度、発掘調査が行われています。まずは、この前回行われた調査の内容について、改めて簡単にご紹介します。

前回の調査では、鎌倉時代から江戸時代以降にかけての遺構が見つかりました。特に、北西端では鎌倉時代の竪穴状遺構と炉跡が見つかっています。付近で見つかった赤く焼けた台石には金属を当てた痕跡があったことから、野鍛冶などを行った跡であろうと考えられます。また、江戸時代以降の井戸や掘立柱建物跡も見つかっており、近世以降の建物の点在した集落景観を彷彿させる事例となりました。

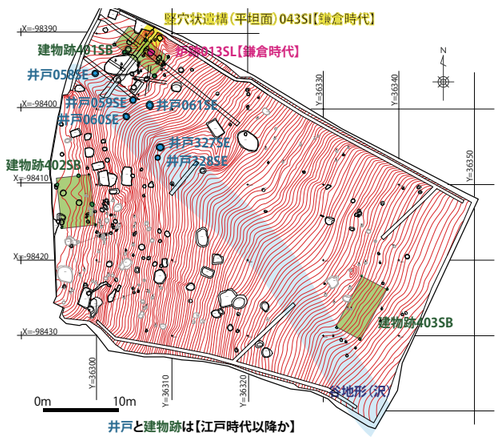
鎌倉時代の竪穴状遺構が見つかった調査区北西端では、当地の地中に広く含まれる片麻岩の巨礫が複数箇所にまとまっており、合わせて縄文時代後期中葉～後葉（今から三千八百年前～三千二百年前）の土器片や、打製石斧およびその製作に関わった剥片・石核が集中して出土しました。このため、調査当初は、縄文時代当時の活動面であると想定して慎重に調査を行いました。ところが、調査が進むに従って、層の下から中世の山茶碗片や、先にご紹介した台石が見つかったことから、これら縄文時代の遺物は、斜面上から土壌ごと動いて、鎌倉時代の活動面の上に堆積したことが判明しました。

今年度は、前回調査区の北隣と、町道を挟んで西側と北西側部分で、広く開けた範囲を調査します。前回の調査で見つかった縄文土器と石器は、角が丸くなるなどの著しい磨滅は認められませんでした。このことから、土石流堆積などで動いていたとしても、ごく近い距離の移動ではなかったかと推定されます。今年度の調査で、その動いたもとの場所、つまりは縄文時代後期のヒトたちのもともとの活動痕跡が見つかる可能性があると考えています。鎌倉時代や江戸時代の遺構の広がりを調査することと合わせて、今回の調査で、是非解明できたらと考えています。

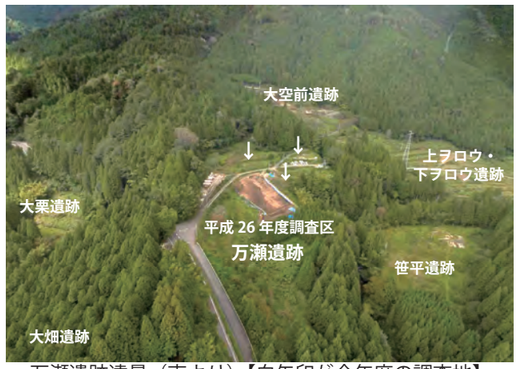
（愛知県埋蔵文化財センター　川添　和暁）



平成 26 年度 土層断面写真



万瀬遺跡 平成 26 年度調査区　遺構位置図



万瀬遺跡遠景（南より）【白矢印が今年度の調査地】

平成 26 年度調査で出土した打製石斧

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡

遺跡は標高三八五～四二五ｍ、境川右岸の南東向きの河岸段丘から山麓緩斜面にかけて立地しています。以前から縄文時代終末期の土器をはじめ、平安から戦国時代にかけての土器・陶磁器が見つかっています。平成二十八年六月から十月にかけて遺跡の範囲を確認する調査を実施しました。その結果、川にほど近い地点から縄文時代中期終わり頃の竪穴建物跡などが確認されました。本年度は、これら縄文時代の建物跡を確認した周辺を中心に三六〇〇㎡の調査を予定しています。隣接する万瀬遺跡や笹平遺跡など境川流域は多くの縄文遺跡が発掘調査によって近年明らかになってきました。上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の発掘調査は本年度から本格的にスタートします。新たな成果が期待されます。

（愛知県埋蔵文化財センター　永井　宏幸）

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡　掘削状況

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡　遺構検出

大空前遺跡

大空前遺跡は標高四三〇～四八八ｍ、境川右岸の斜面地に立地しています。遺跡分布調査時に平安時代の土器が発見されていますが、平成二十八年度の調査時は、町道等による土地利用により、昔の地形を保っていませんでしたが、近世以降の陶磁器片が出土しています。今年度は町道を挟んだ上段を調査します。分布調査時に発見された平安時代の土器や平安時代の遺構が検出されるか期待されます。

（愛知県埋蔵文化財センター　田中　良）

石原遺跡

川向地区の境川右岸の斜面地に立地する石原遺跡では、昨年度は沢寄りの範囲（一八Ａ・一八Ｂ区）で調査を行い、段丘面を利用した集落の一端が明らかとなってきました。

まず下延坂遺跡との間を流れる延坂沢に近い東側の一八Ａ区では、縄文時代後期から晩期とみられる約二十基の土坑が見つかりました。ある地点から出土した約八十点の石核や剥片の中には接合するものが認められ、ここで凝灰岩を石材とする石器の製作が行われていたことがわかりました。

また一八Ｂ区で検出された遺構には、縄文時代中期前半の竪穴建物跡や土坑があります。直径約八ｍと約四ｍの規模をもつほぼ円形の竪穴建物跡は重複していて、複数の土坑がほぼ同じ場所に集中しています。洪水などで埋没しても繰り返し利用する、縄文人の場の使い方がみえてきました。

今年度は一八Ａ区に隣接する北側から県道北側の緩斜面にかけて、および一八Ｂ区に隣接する西側の緩斜面で発掘調査を行います。一八Ａ区と一八Ｂ区で異なる時期の遺構や遺物が展開していたように、今回もまた別時期の遺構や遺物の展開がみられるかもしれません。

（愛知県埋蔵文化財センター　武部　真木）

石原遺跡　竪穴建物跡 325SI

石原遺跡　石囲炉 330SL

新設楽発見伝5が好評でした

三月二日(土)に開催いたしました昨年度の成果報告会『新設楽発見伝5』には、多数ご来場いただきまして、ありがとうございました。

昨年度発掘調査をおこなった、石原遺跡、滝瀬遺跡、中村遺跡、ハラビ平遺跡(中村遺跡とハラビ平遺跡は範囲確認調査をおこなった)の成果報告と、現在整理作業中の川向東貝津遺跡の出土資料と関連付けて、愛知学院大学の白石浩之教授にご講演を賜る機会となりました。

成果報告の会場では、縄文時代中期前半の竪穴建物跡が検出された石原遺跡の報告をはじめ、県内で初めて縄文時代草創期～早期初頭の集落跡が検出され、新聞でも報じられた滝瀬遺跡の報告など、熱心にご静聴いただきました。出土遺物の展示コーナーにおいても、参加者の皆さんは土器や石器に興味津々の様子で、質問も盛んに飛び交っていたようです。「設楽町にこんなものが眠っていたなんて」と驚いた声や感想も聞かれました。

「文化変動する先史時代の日本」と題した白石浩之先生のご講演では、日本列島の後期旧石器時代から縄文時代草創期までの石器文化が示され、石器文化が変化していく要因を自然環境の変化と関連付けて、わかりやすく解説していただきました。

講演会後の座談会では、設楽町内の後期旧石器時代から縄文時代草創期の遺跡とその石器文化をとりあげた、「文化変動する先史時代の日本そのとき設楽は?」をおこないました。後期旧石器時代から縄文時代草創期までの石器文化は当時の自然環境とどのように結びつき、変化していったのか、古環境の視点からもご紹介しました。最後に、白石先生から全国の遺跡と、設楽町で見つかっている遺跡の共通点などの解説をしていただきました。

今年度も愛知県埋蔵文化財センターのホームページで発掘調査の成果を、皆様にお知らせするほか、地元説明会や成果報告会では直接お伝えしていきますので、今年度も引く続きよろしくお願いします。

(愛知県埋蔵文化財センター　田中　良)

新設楽発見伝５の様子

設楽発掘通信 No.46

令和元年5月号

編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ケ須町野方802の24
電話 (0567)67-4161【管理課】4163【調査課】
ホームページ http://www.maibun.com
Facebook https://www.facebook.com/maibunaichi
Twitter https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力　株式会社イビソク